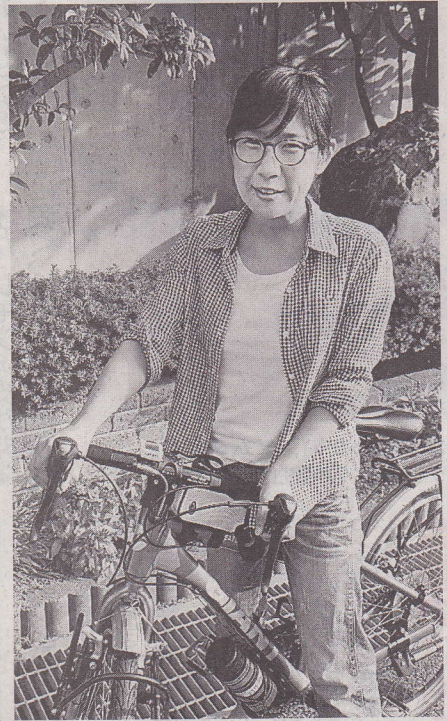


ニュースの現場から

時のひと

聴覚障害を乗り越え自転車で日本を縦断するドキュメンタリー映画を撮影

いまむら あやこ
今村 彩子さん(37)

自分を映画の主役にしたのは初めて。耳が聞こえない中でどう他人と付き合つか、模索しながら自転車で日本を縦断した57日間を記録した。「コミュニケーションが苦手だったり、自分に自信が持てなかったりする人に、また頑張ろうと思ってもらえたら」と話す。生まれつき両耳が聞こえない。映画監督を志して米国の大学で製作方法を学び、ろう者や難聴者をテーマにドキュメンタリーを撮ってきた。

旅のきっかけは、社会との懸け橋になってくれた母の死。ショックで死にたいとさえ思った。好きな自転車で旅し心のどこかで避けてきた健聴者とのコミュニケーションを見直せば、前向きに歩きだせるかも。それを作品にしよう。題名は「Start Line」。同行者は、自転車店で働く友人の堀田哲生さん(41)。健聴者との会話に気後れする今村さんに「耳が聞こえないことに甘えていい」と叱咤(しつた)し続けた。時にぶつかり涙を流したが、それでも懸命にペダルをこぎ続けた。編集作業で、ふがいない自分の姿を残した。「できなかった」というのが旅の本質だったから。でも、スタートは何度でも切れると分かった」。試写会では健聴者と難聴者を問わず「自分と重ねて見えました」と共感の声が相次いだ。「旅を通して気負わず健聴者に話しかけようと思うようになった」。今後は聴覚障害にとらわれず映画を撮るつもりだ。名古屋で父親と祖母、愛猫と暮らす。